

危機感はありますか？

労働条件は年々悪化します

このような話題になると、自分たちが何を言っても会社の方針は変わらない」「他の会社はもっと厳しいから仕方ない」等の考えが、真っ先に頭の中に浮かんで来る方が多いと思います。

しかし、労働条件は変わるのに、私たちの考え方や働き方は変わらなくていいのでしょうか？

労働契約の内容をご存知ですか？私たちは労働力という商品として会社に提供して賃金を貰っています。会社と労働者は対等な立場にあります。そんなはずはない、会社が強いに決まっている！」と思う方に質問します。なぜ、会社のほうが強いのですか？それは私たちが、会社を辞めることによるリスクを恐れているからです。

それでも私たちは、この先定年まで働かなくてははいけません。

法律は一体、何のためにあるのでしょうか？ 私たちが本場の意味で会社と対等になるためには、何よりも学習することが必要です。

出る杭は打たれるから、大人しくしておいたほうがいい」という方もおられますが：そう思うのはなぜでしょうか？きちんと勉強して知識を身につけていないからではないのですか？

湯の中の「カエル」の話

カエルを熱い湯の中に放り込めば、びっくりして飛び出してしまいます。しかし、水の中に入れて、徐々にアルコールランプで温めてやれば、カエルは自分が浸かっている水がどうなるかを知らないうで、気がついたときにはもう手遅れ、死んでしまいます。」

労務管理と職場支配」(労大新書)

この例え話からも分かるように、**私たち自身が気づかないうちに、労働条件はどんどん悪化していきます。**

現実には納得できないことは誰にでもある、文句を言うのではなく自分が変わらなければいけない」。このような台詞がいたるところで、もっともらしく語られています。では、私たちはどう変わるべきでしょうか？日帰りグルメ等の増収活動や勤務時間外の自主活動。もし、これらのノルマがより厳しくなったら：どうしますか？

会社と労働者では持つべき考えが全く違うということを繰り返し述べてきました。



労働組合は何のためにあるのでしょうか？



若い力

第 79 号

2017年 9月15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515